

令和6年度 学校推薦型選抜 人間健康科学部看護学科 小論文
出題の意図と解答の傾向

第1問

【出題の意図】

我が国は、2023年9月現在、高齢者人口は3,623万人、高齢者人口率は29.1%となった。また、平均寿命は2022年では、男性81.05歳、女性87.09歳で、女性の平均寿命は世界一である。高齢化は進み、加齢が最大因子である認知症が増加している。認知症は、2025年には、高齢者の5人に一人になるといわれている。

本学科のアドミッション・ポリシーの「人に関心があり、他者と尊重しあう価値観を備えている」「看護や医療に関する専門知識や技術の修得に必要な意欲及び基礎学力を備えている」「柔軟な発想で分析し、論理的思考に基づいて論述できる」「看護職者として社会に貢献する意思や具体的イメージを有している」を測るため、人と尊重しあう価値観、柔軟な発想が分かる課題文を読み、認知症の方が安心して暮らす社会を目指すために、さらに病気や障がいがある有無に関わらず、共に生きることを考える設問とした。

【解答の傾向】

設問1

認知症当事者である筆者の伝えたいことの要約を求めていたが、自分の考えを述べている解答が散見された。また、誤字や、認知症者、患者、認知症患者という表現を用いた解答もあった。

認知症になると記憶が全てなくなるわけでもなく、日常生活が全く出来ないというわけではなく、出来ないこともあるが、当事者には希望があることを読み取った解答は少なかった。当事者は、ポジティブな声かけを希望していること、ネガティブな言葉で自信をなくすことや自分はダメな人間と感ずること、家族が頑張ってしまうと自由が奪われる、依存すし、何でもやってもらおうと、困らなくなり、家族も疲れ、共依存になるという解答は多くの受験生が読み取ることが出来ていた。

設問2

認知症当事者の気持ちを踏まえ、個人として何が出来るかを記載する必要がある。当事者は、何もできないわけではなく、やりたいことや希望もある。介助者がすべてを先回りしないで、主体性を大事にしてほしいという気持ちを持っており、当事者の普通に生活したいという気持ちを尊重し、関わってほしいと思っている。

日常生活で関わる人びとに対し、認知症の有無に関わらず、支え合う社会の実現、自分らしく生きたいという希望、人としての尊厳を保持し、例えば、バスの中で小銭を出すことに戸惑っている方への対応、当事者が孤立しないような声掛けといった配慮が考えられている解答もあった。

しかし、解答の中には、設問とはかけ離れた記述や、相手から相談があったときのみ答える、自ら足を踏み入れる行動はしない、当事者と距離感を保つなどの解答も散見された。このように、できることまでやってもらうことで、自分で決めて行動する、自由が奪われるという当事者の気持ちの解釈を誤つ

ている記述内容もあった。

第2問

【出題の意図】

英語の読解力と日本語の表現力を測る問題。出題した問題は国連のホームページに掲載された世界の人口推移と今後の人口増加の予測について説明したグラフと英文であった。

英文の例題を読んで、その内容を理解するためには、英語の文法や単語、社会背景などの知識が必要である。また、英文の構造や論理的な流れを把握する力も重要である。それを踏まえて日本語で内容を要約し、論理的にまとめるには、適切な表現や論理的な展開が求められ、自分の考えや意見を正しく伝える力も必要となる。これらの力は、大学受験はもちろん、社会に出てからの仕事や日常生活においても必要なものである。この問題は、受験生がこれらの力を身につけているか、その素養があるかを確認することを目的とした。

設問1は本文に書かれている英文やグラフから読み取れることや本文の内容を適切に理解し、簡潔に説明できるかの能力を試す問題である。

設問2は英文から考えられる問題点を理由と共に一つ挙げて、その解決方法について考えを述べる問題であった。本学科ではアドミッションポリシーの一つとして「柔軟な発想で分析し、論理的思考に基づいて論述できる。」を挙げている。この設問は論点の整理と論理的な展開を行い、説得力のある主張や意見を論述できるかを問う問題である。

【解答の傾向】

英文自体の難易度は高くないことと、グラフから人口増加の問題であると簡単に類推できるため、問題の主題を間違えている受験生はほとんどいなかったが、設問1では問題文中の要点を整理したうえでの解答ができていない受験生が多くいた。

Billionは十億という単位であるが、一桁少なく解答した者が多かった。しかしこれは日本の人口が1.2億人強であることや最近話題になっている中国やインドの人口などの世界情勢に関するニュースを知っていれば答えることのできる問題である。

主語がない解答も多く見受けられた。例えば変化について述べた解答であっても主語がないと「何が」変化したのか相手に十分に伝わらないので注意してほしい。

設問2では、多くの学生は英文やグラフから考えられる問題点について、理由を述べたうえで一つあげることができていた。その解決策に対する論点の整理については、本文の内容を長く引用しすぎている傾向も見受けられた。この場合、字数の制限もあって論理的展開ができないまま、主張の説得力が弱くなっている傾向があった。